

The logo features a solid blue background with a white vertical line on the left and a white diagonal line sloping downwards from left to right. The text 'UAAWS' is centered in the upper blue section, and '2019' is centered in the lower blue section. The Japanese text '世界都市農業サミット' is positioned in the bottom right corner.

UAAWS

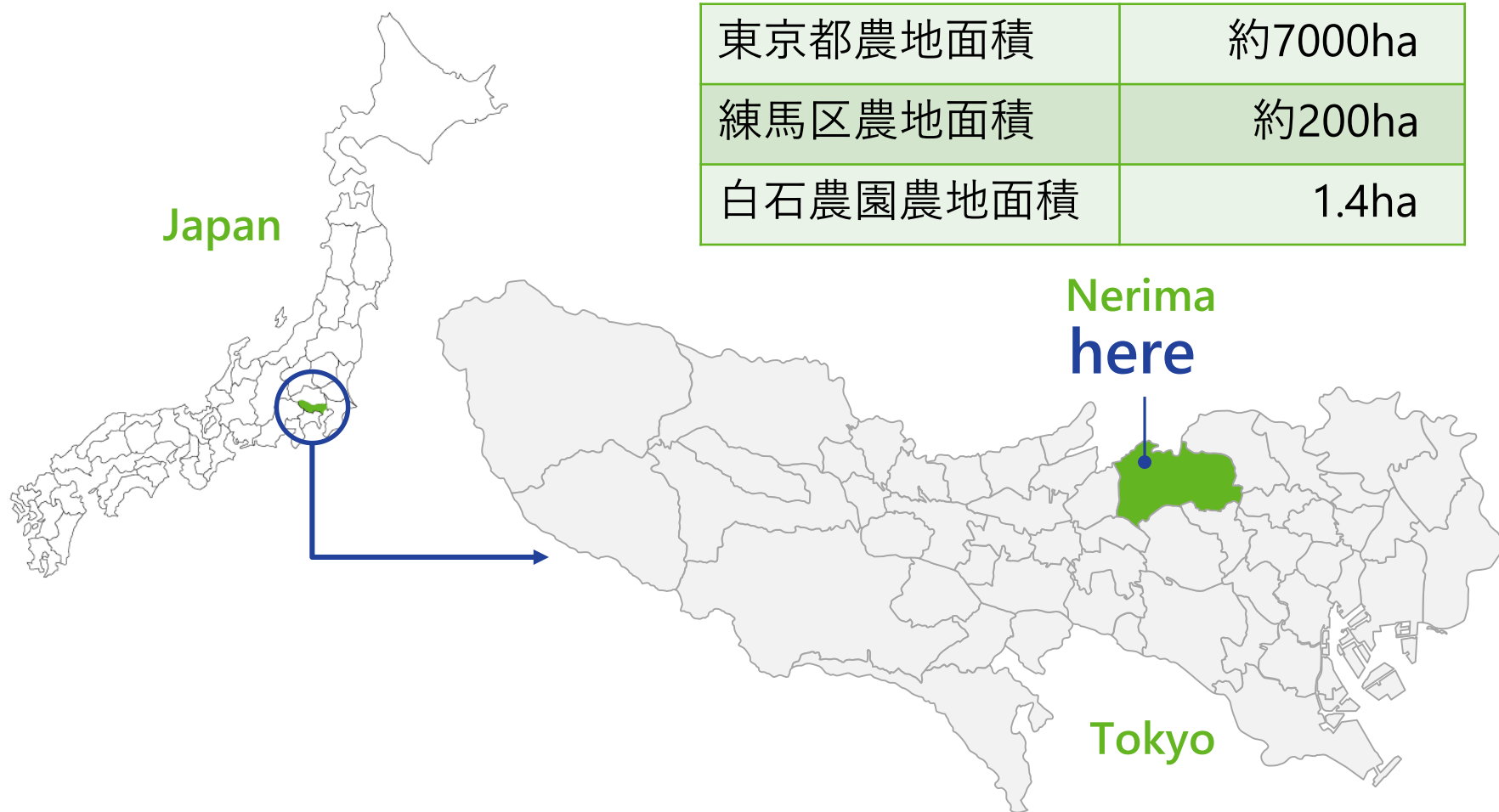
2019

世界都市農業サミット

練馬区の都市農業

白石農園 白石好孝

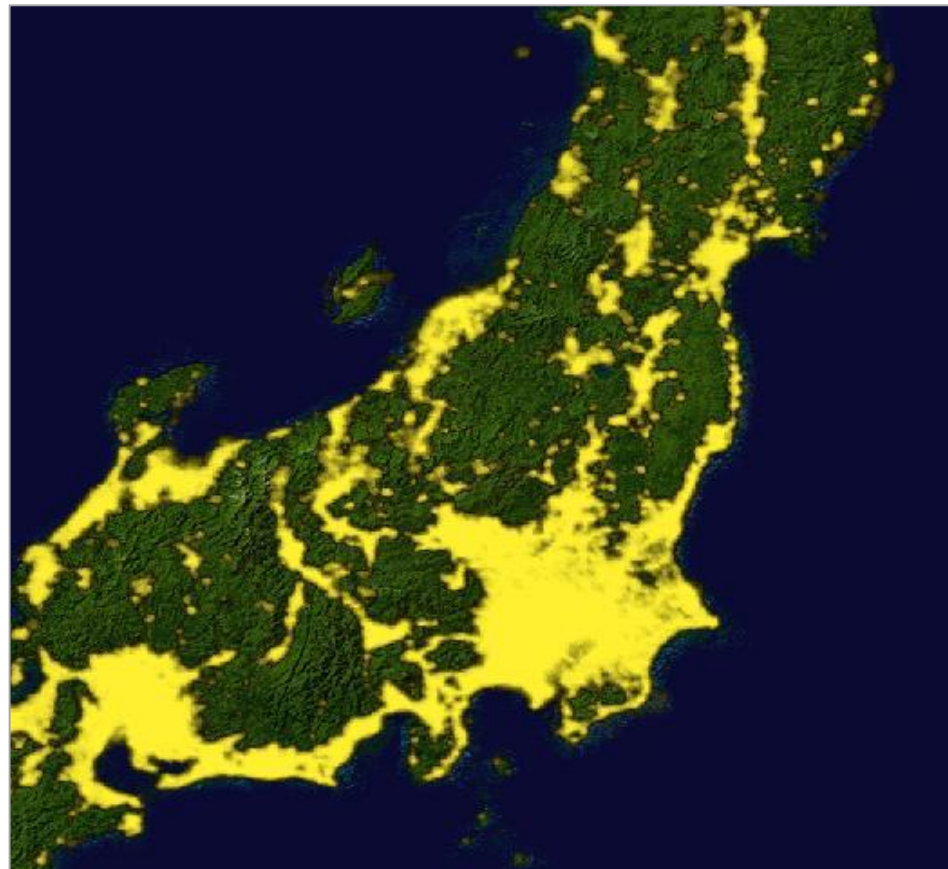
—都市農業の歴史をたどる—



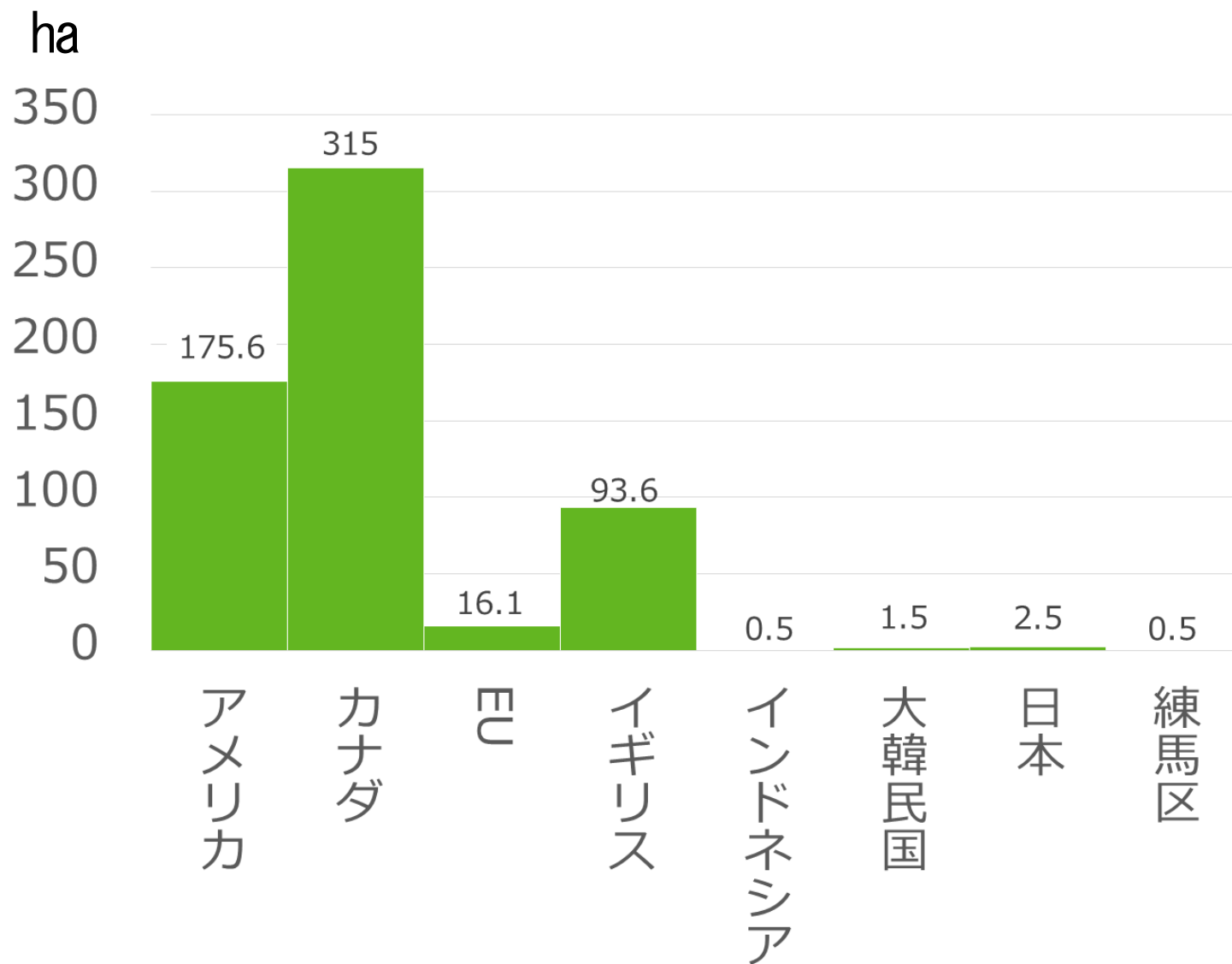
白石農園は1600年代(江戸時代初期)から農業を継続

宇宙ステーションから夜の日本をみると

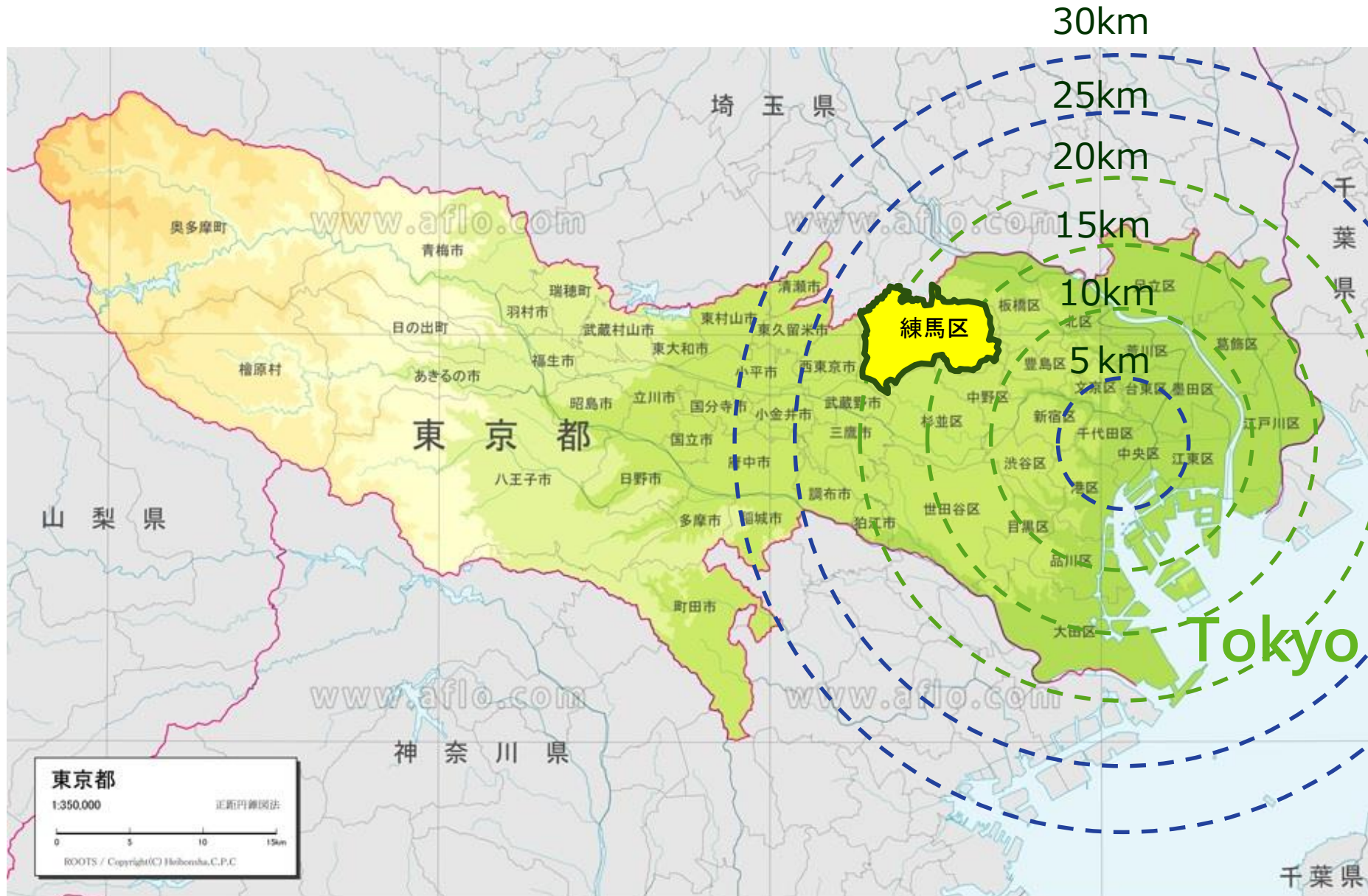
森林が多く 少ない平野に人口が集中している



各国の1経営体あたりの平均農地面積

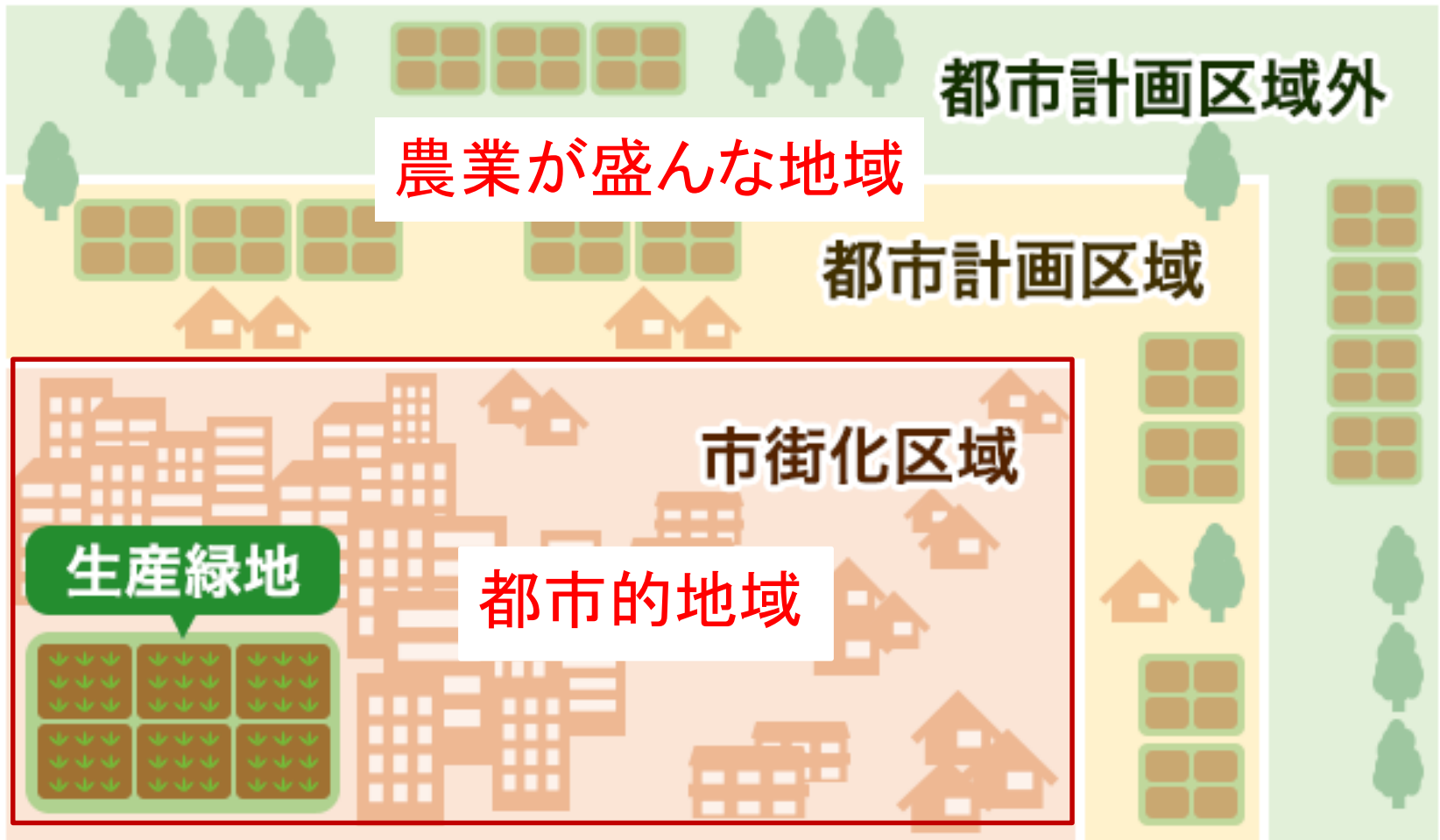


練馬区は都心から 10 km ~ 20 km に位置します



練馬区の農地（生産緑地）

—東京都心に近い「市街化区域」の中にあります—



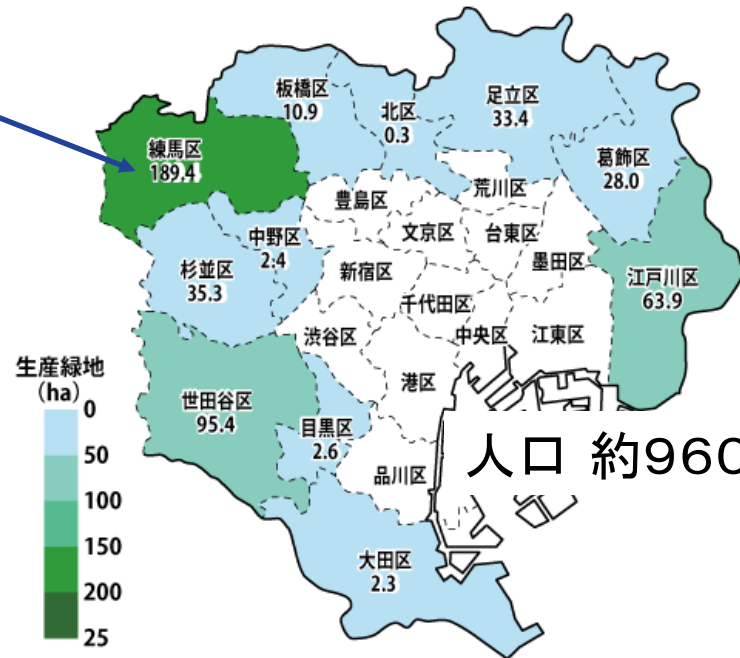
市街化区域農地

一般農地

23区内にある農地の約40%が練馬区にあります

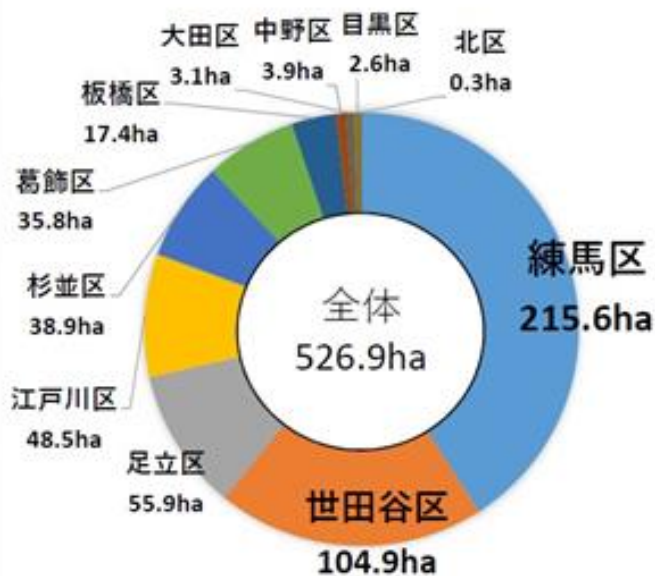


23区の生産緑地



人口 約960万人

区部の農地面積



サッカー場 約280個分の農地

農家数438戸 (960人)

なぜ練馬の都市農業(農家)は生き続けてきたか

・現在の都市農地の所有者は、古くから続く農業者が多い。

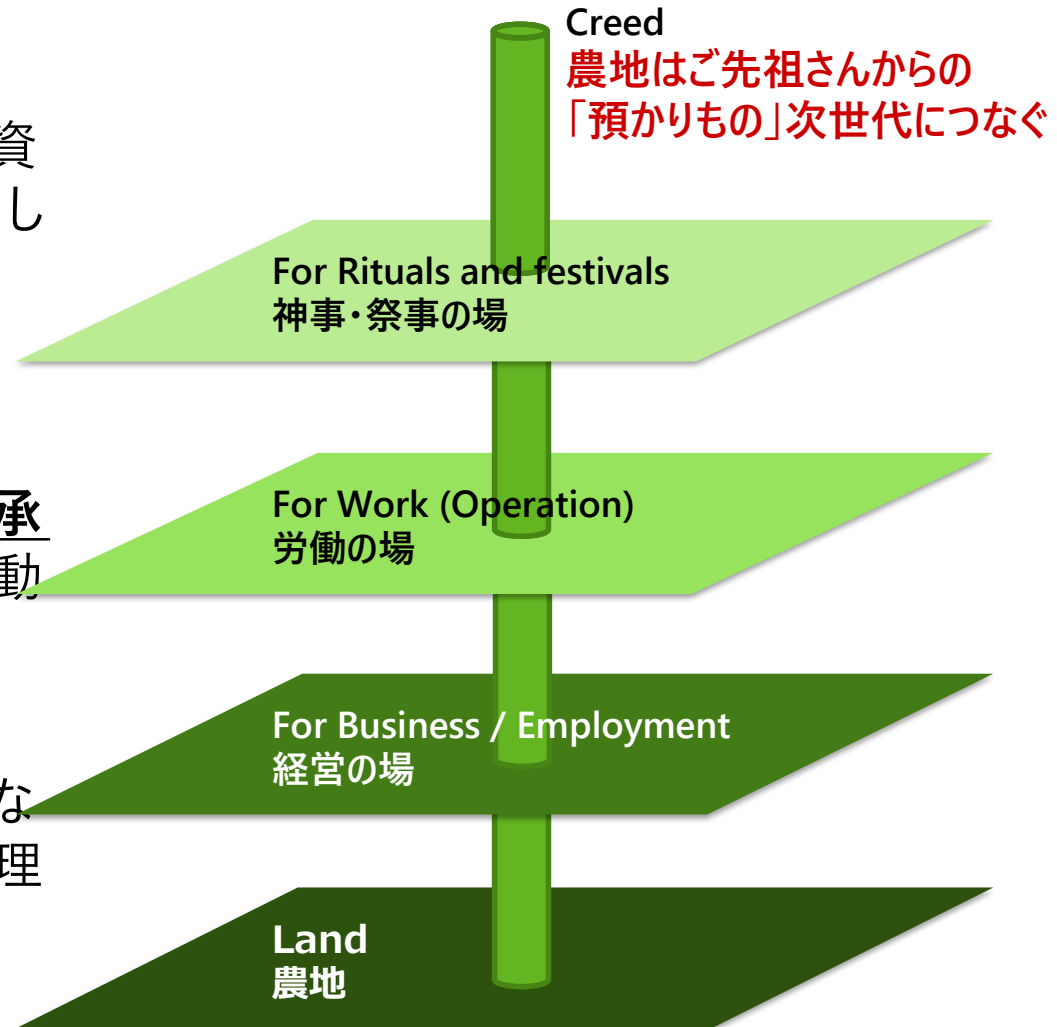
・農業者にとって、農地は、経営資源であり、労働の場、祭事の場としての意味をもっている。

都市化が進むなかで

その農地を先祖から次世代へ継承すべきものという信念に基づき行動してきた。

・そのため、売却等による短期的な利益の追求を避け、時に経済合理性に抗い、農地を保持してきた。

【都市農家の農地との関わり】



1940年代と2000年代の練馬



1940年代



2000年代

都市農業の歴史

- 1950年代までは、東京の至る所で農業が営まれていた
- 1960年代、農地の宅地化がすすむ
- 都市に農地はいらないという声に
 農業者・JAなどから都市農業を守る運動が起こる
- 1999年食料農業農村基本法に都市農業の存在が明記
- 社会変化とともに都市農業の価値が再認識され

2015年都市農業振興基本法が制定される

そしていま、都市ならではの農業を模索

白石農園の事業内容 （経営面積1.4ha ≒ 3.5ac）

- 野菜の生産販売・ブルーベリー園・・・0.9ha
- 農業体験農園 大泉風のがっこう・・・0.5ha
- 子どもたちに農業体験（食育）をすすめる活動
- 精神障害者の社会適応訓練の受け入れ
- 畑のレストラン「L a 毛利」の設置

多品目の野菜を少量生産

- 野菜の生産販売

- 年間を通じて約 1 0 0 種類の野菜を生産



地産地消

- 生産した野菜はJA直売所やスーパーで販売




野菜の自動販売機

ブルーベリー摘み取り園

練馬かじゅあるファーム
ブルーベリー摘み取り園

● 摘取期間 7月17日～8月30日まで
● 開園日 金土日
● 開園時間 10時00分～12時00分(午前中)
● 連絡先 080-5524-6022

白石農園
JA東京あおばブルーベリー研究会 園主



農業体験農園 大泉風のがっこう



農業体験農園は「野菜づくりのカルチャースクール」



白石農園の事業内容

- 子どもたちの農業体験（食育）をすすめる
 - 地域の小中学生に農業体験を指導・練馬大根の生産体験や社会科見学・職場体験等年間1000人あまりを受け入れている



白石農園の事業内容

- 精神障害者の社会適応訓練事業所
 - 社会復帰訓練として精神障害者の受け入れ



白石農園の事業内容

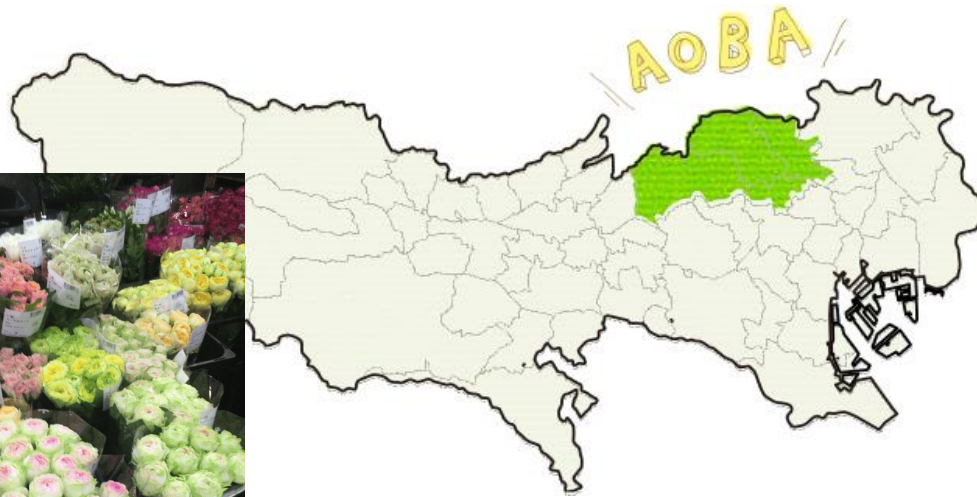
- 畑のレストラン「L a 毛利」を設置



東京あおば農業協同組合（JA東京あおば）

—Japan Agricultural Co-operatives “JA Tokyo AOBA”—

- 東京都板橋区・北区・豊島区・練馬区を管轄している農業協同組合です。
- キャベツを基幹作物として、ダイコンやブロッコリーなど多品目が栽培されており、花卉・果樹・植木・盆栽なども生産されています。また、伝統作物の復活栽培にも取り組んでいます。



JA (Japan Agricultural Cooperatives) は全国組織



正組合員数

JA東京あおば

2686人



東京都

43000人



全国

430万人

J A 東京あおば農産物直売所

こぐれ村



ふれあいの里



とれたて村石神井

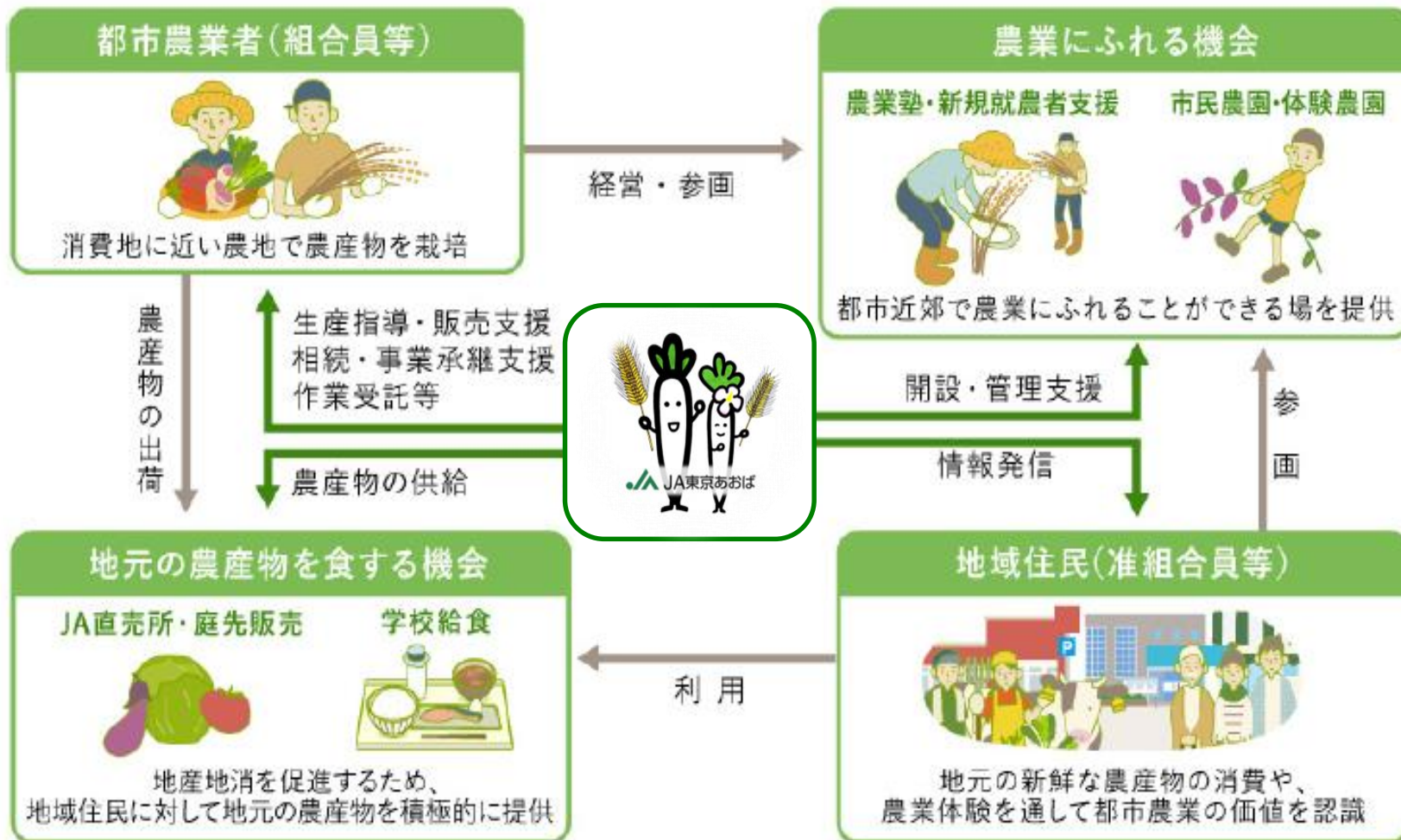


練馬地区アグリセンター



J A 東京あおばは 農業者と 地域住民の架け橋

都市部における JA の役割(イメージ)



J A 東京あおば農業祭



大嘗祭 新天皇即位にあたりキャベツを献上



井之口 喜實夫さん ご家族

練馬大根引っこ抜き大会



練馬区内の農家数 438戸（960人） 2017

－ 4か所のJA直売所と100件以上の農家の直売所があります



練馬区は農園天国！

- 農家が運営する農業体験農園が 17 農園（約 1800 区画）
- 練馬区が運営する市民農園等が 26 農園（約 1700 区画）



合計 約3500区画

その他にも J A が運営する
レジャー農園や老人クラブ農園などが
あります



果樹の摘み取り農園

—約 40 か所あります—



料金のご案内(全国統一)

- 摘み取り方式 100g 200円
- バック詰め販売がある場合、料金設定は100gあたり300円を基準に設定されています。

★食べ放題ではございません

2 3 区内唯一の小泉牧場

—子どもたちの酪農体験をたくさん受け入れています—



練馬区(行政)と農家(JA)の連携で息づく都市農業

- 練馬方式 農業体験農園 17園
- 果樹あるファーム 約40園
- マルシェ（交流型直接販売） 6グループ
- 小中学校の農業体験活動 毎年3000人
- 練馬大根育成事業（練馬大根引っこ抜き大会）
今年で13回目 毎年600人
- 練馬区農の学校 生徒数120名
- 練馬区は都市農業が生きるまち
- そして、世界都市農業サミットの開催 重点施策

ご清聴ありがとうございました

-Thank you very much for listening.-

